

石見海域漁場環境保全調査

(漁場環境保全対策推進調査事業)

井岡久・石原成嗣・開内洋

1. 研究目的

漁場環境の悪化が予想される水域について、その現状を把握し、資料の蓄積を図る。

2. 研究方法

(1) 調査地点及び水層

江津地先 15 点の 1・10m 及び底層。

(2) 調査項目

水温、透明度、濁度、浮遊物質 (SS)、pH、溶存酸素 (DO)、COD、栄養塩類

(3) 調査日時

平成 13 年 9 月 14 日

3. 研究結果

水層 (m)	区分	水温 (°C)	塩素量 (‰)	浮遊物質 (ppm)	COD (ppm)	NH ₄ -N (μ g-at/l)	PO ₄ -P (μ g-at/l)	NO ₂ -N+NO ₃ -N (μ g-at/l)
1	最小値	23.1	18.088	8.9	0.76	0.00	0.00	0.00
	最大値	23.9	19.149	12.1	1.06	1.45	0.03	0.57
	平均値	23.4	18.400	10.4	0.89	0.36	0.01	0.10
10	最小値	22.9	18.333	8.8	0.67	0.00	0.00	0.00
	最大値	23.5	18.782	13.4	1.35	0.86	0.05	0.16
	平均値	23.3	18.473	10.3	0.98	0.26	0.01	0.05
底	最小値	22.6	18.353	1.3	0.81	0.00	0.01	0.00
	最大値	22.9	18.639	16.6	1.16	0.73	0.08	1.19
	平均値	22.8	18.468	11.1	0.98	0.30	0.03	0.20

4. 研究成果

- COD は一部の定点で 1ppm を越えていたものの、水層別に平均を取ると 0.89 ~ 0.98ppm であり、平成 11 年度の調査結果 (1.01 ~ 1.24ppm) と比べると減少していた。
- 栄養塩類量の値には大きな変動は無かった。硝酸塩及びアンモニウム塩については、平成 7 年からのデータと比較すると、若干の減少傾向が見られる。
- 総合的に、近年は調査地点の水質に重大な変化は生じていないことを確認した。